

1 全体計画

学校の教育目標

ともに生きる子 人 と 社会 と 自然 と

人権尊重の精神を基に、明るく健康で、知性と感性に富んだ児童を育成するために目標を設定し、その実現を図る。

平成30年度学校経営方針

教育基本法の理念の下、基礎教育を担う小学校教育の使命を自覚し、児童の健やかな成長を期し、その自己実現のための支援に力を尽くすことを基本理念に、教育目標の具現化を図る教育を推進し、地域の学校として確かな信頼を得るよう学校運営を行う。

本校の捉える「確かな学力」

- ・基礎的、基本的な力（読み、書き、計算）
- ・自ら課題を解決する力
- ・文章に即して読み取る力（読書活動の充実）
- ・考える力（比較、関連、統合等）
- ・豊かな言語活動とコミュニケーション能力
- ・発達段階に応じた力
- ・バランスのとれた思考力・判断力・表現力

平成30年度の指導の重点

<各教科>

社会：自ら比較でき、考えられる資料を選定し提示することで、考える意欲を高めさせる。

算数：習熟度別授業により、児童の学力に合った問題の場を設定する。

国語：言語活動を充実させ、説明的文章を読み取る力をつける。

理科：問題意識や目的意識を明確にした実験計画を立て、実験結果の考察を丁寧に行う。

図画工作：楽しみながら基礎基本を身に付け、人・もの・場と関わりながら表現したいことを見つけて表す活動や、鑑賞ができるようにする。

家庭：実践的・体験的な活動を多く取り入れ、家族の一員としての自覚を高め、できることを増やし、家庭生活に生かそうとする態度を育てる。

生活：活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付き、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。

体育：体力テストで課題にあがった力を身に付けさせるために、教材を選定し、意識的・効果的に運動に取り組むことができるように授業を作る。

音楽：基礎基本を身に付け、それらをもとに、思いや意図をもって音楽を表現したり鑑賞したりする喜びや楽しさを学ばせる。

<特別の教科 道徳>

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えを深める学習を大切にする。

<特別活動>

集団の一員としての自覚をもたせ、どの児童にも居場所のある学校、学級をつくり、自主的、実践的な態度を育てる。

<総合的な学習の時間>

人、社会、自然の3本柱を立てて、年間指導計画を作成することによって、互いに学び合う力、人や社会に関わり合う力、自然を愛する心を育てる。

<生活指導>

重点目標：自分から挨拶、思いやりのある言葉遣い、安全な廊下歩行

・いじめ防止対策委員会及びいじめ対応担当を設置し、迅速かつ組織的に対応する。

・スクールカウンセラーや心の教室相談員との連携を密にし、教育相談の機能を生かした生活指導体制を整備する。

・家庭や地域と連携して、「セーフティ教室」「薬物乱用防止教室」「SNS 学校ルール」を活用した、発達段階に応じた安全教育を行う。

<進路指導>

全教育活動を通してキャリア教育を行い、将来への夢を育み、困難を乗り越える忍耐力や願いを実現しようとする強い意志を身に付けさせる。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・個に応じた指導の徹底（1～6年の算数の少人数指導 5・6年の理科 TT 指導）
- ・特別支援教室専門員と連携した算数教材の開発
- ・とうのやま学級と連携した月1回の国語の授業（1・2年）と MIM-PM の実施

教育課程編成上の工夫

- ・行事、週時程の見直しによる授業時数の確保
- ・巡回指導員と連携したスタートカリキュラムの実施
- ・塔山タイムを活用した基礎・基本の徹底
- ・夏季休業中の補充学習の実施
- ・少人数担当教員による放課後補充学習

評価の工夫

- ・年間指導計画に基づく評価計画の作成
- ・意識調査、各学力調査の分析の活用
- ・新学習指導要領を見据えた年間指導計画や評価基準の見直しと作成
- ・学年で統一した評価方法の工夫

校内研究・研修の工夫

- ・国語の説明文における指導法の工夫と授業実践
- ・道徳における評価計画と評価方法の実践と検証
- ・小中連携の取組
- ・全学年におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組
- ・年間をとした計画的な OJT 研修と特別支援教育の研修

家庭・地域との連携の工夫

- ・年2回の個人面談、年3回の保護者会の実施
- ・学校公開、学校行事のアンケートの実施
- ・学校評議員による関係者評価の実施
- ・保護者や地域ボランティアとの連携（地域清掃、塔山まつり）
- ・ホームページの定期的な更新

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点 ・言語活動を充実させ、説明的文章を読み取る力(文における主語を捉える力、文の構成や表現の工夫を捉える力)をつける。 ・書く力(特に目的に応じて文章を要約する力)をつける。 ・言葉がもつよさを感じさせ思いや考えを伝え合おうとする態度を養うために、語彙指導、読書活動を充実させる。		話す ・聞く力	書く力	読む力	言語についての 知識・理解・技能
	2年生	68.7	55.2	61.2	86.6
	3年生	82.4	82.4	79.7	90.5
	4年生	60.0	73.3	76.7	76.7
	5年生	83.9	76.8	91.1	82.1
	6年生	83.7	87.8	77.6	85.7

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名片仮名の定着には差がある。平仮名読みや片仮名書きのテストで基準に満たない児童が数名いる。筆順・拗音・促音・助詞の使い方の定着は十分でない。</li> <li>語彙力に差がある。自分の気持ちや伝えたいことを表現する力に課題がある。</li> <li>意欲的に発言する児童が多い。声の大きさを使い分けるのが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を書く経験の積み重ねが不足しており、言葉の特徴やきまりに関する事項の指導が十分でない。</li> <li>語彙量を増やす活動が不足している。</li> <li>場に応じて声の大きさを考えて使い分ける話す力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きらりルームと連携した指導を行う。文字の読み・書きの繰り返し、音読の継続指導を続ける。定期的な日記指導や作文指導を行い、書く経験を積んでいく。</li> <li>気持ちを表す言葉や、修飾語などの学習したことばを掲示し、語彙力の向上を図る。</li> <li>スピーチやペアの対話を朝の会や授業の中で取り入れ、声のものさしを例に話し方や聞き方を身に付けさせる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を正しく書くことはよくできているが、読むことの一部に課題がある。片仮名や拗長音の定着が不十分である児童もいる。</li> <li>自分の考えが明確になるように書くことについて、苦手意識をもっている児童が多くみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」に重点を置いた基礎的な学力の定着。</li> <li>文や文章を書く機会の設定。</li> <li>経験したことや想像したことについて、順序を整理し、構成を考えて書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字について、書くことだけでなく読むことについての反復練習をさせる。</li> <li>短作文や日記帳を活用し、「はじめ・中・おわり」の構成を意識させたり、前後の語句や文のつながりを大切にさせたりする指導を行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の内容の読み取りに課題がある。とくに事柄の順序や大事な言葉を読み取ること。</li> <li>問いのねらいにそって、自分の考えを表現するために作文することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章表現力に乏しい。</li> <li>漢字や言語の定着に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に2回、作文の活動を取り入れ、書く機会を増やす。</li> <li>漢字を覚える方法を一緒に考えたり、スモールステップで習熟を図り達成感を感じさせたりする。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの考えの相違点や共通点を考えながら話す力に課題がある。</li> <li>自分の考えを資料と関連付けて書く力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の内容の要点を明確にし、相手に伝わるように順序立てて話す力の育成。</li> <li>資料を読み取り、全体の構成を意識して文章を書く力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話型を身に付けさせるとともに、相手意識をもち、自分の考えを話す場を授業内に設定する。また、相違点や共通点を意識して聞くことも伝える。</li> <li>総合的な学習の時間をはじめ、他教科との関連を図りながら、資料をもとに書く言語活動を設定する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く力に課題が見られる。</li> <li>話す・聞く力は、個人差が大きい。</li> <li>言語についての知識・理解・技能については、目標に達していない割合が高めである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と感想、意見などを区別し、詳しく書く力の育成。</li> <li>読み手に伝わるように書く力の育成。</li> <li>話し手の意図をとらえながら聞く力の育成。</li> <li>漢字や言語に苦手さがある児童への指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記や作文では、「事実、感想、意見」を区別して書くよう、重点的に指導する。</li> <li>問題提示、具体例、まとめの基本的な文型での作文指導。</li> <li>聞く視点を明確にする。</li> <li>反復学習で漢字を書く力の育成。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に比べて話す・聞く能力が伸びた。読む能力を高めたい。</li> <li>書く力は、個人差が大きい。</li> <li>言語に関する知識・理解・技能についても、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、明確に伝える力の育成。</li> <li>筆者の意図を読み取る力の育成。</li> <li>構成を工夫して、効果的に自分の考えを書く力の育成。</li> <li>言語の知識・理解・技能に苦手さがある児童への指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアトークで話す・聞く力を育む。</li> <li>必要な情報を読み取り、サイドライン等の印を引かせたり、ペアやグループでの学習を取り入れ、考えを交流する中で読む力の向上を図る。</li> <li>日記や作文では、自分の考えを裏付ける経験を入れる等、構成を工夫して書くよう、重点的に指導する。</li> <li>デジタル教材の活用や個別の指導を行い、言語の知識・理解・技能についての学習を丁寧に行う。</li> </ul>

(2) 社会科

社会科の重点

	思考・判断・表現	技能	知識・理解
6年生	85.7	83.7	83.7

・自ら比較でき、考えられる資料を選定し提示することで、考える意欲を高める。

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

・社会的事象等について調べまとめる技能を身につけるために

- ①社会調査活動を多く取り入れる。
- ②資料等から事実を正確に読み取らせるために、読み取る観点を提示して活動する。
- ③読み取った情報を課題解決に向け、整理してまとめる方法を指導する。

現状分析 (成果と課題)	
分析内容	
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習では、資料や白地図、カードなどを用いて地域の特徴をまとめることができた。</li> <li>・生活科との連続性に考慮し、またフィールドワークを行う際の視点を持たせ、観察・記録する活動に取り組んだ。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なことに興味をもって調べることができ児童が多い。</li> <li>・分かったことをまとめたり、自分の考えを表現したりすることが苦手な児童がいる。</li> </ul>

授業改善プラン	
指導上の課題	改善案
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが生活する地域を地図と結び付けて考えることが難しい児童が多い。(地図の読み取りに課題)</li> <li>・事例を比較し、違いやその特色を見つけ出すことが難しい。</li> <li>・事例について課題をもって調べ、豊かに表現することが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚資料を用いて方角や場所を捉えさせ、点的な理解から面的な理解へ発展させていく。</li> <li>・事例を比較する際、着眼点や視点を提示する。</li> <li>・課題意識をもたせる。</li> <li>・見学や調査の後に振り返りを行い、学習事項の理解を深め、意見を共有してからまとめの活動に取り組ませる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心を引き付ける導入教材を設定する。</li> <li>・児童の気付きや考えをもとに、できるだけ児童の言葉を用いて学習問題を作る。</li> <li>・かかわりがあることを実感させるための学習活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署見学、水道キャラバン、社会科見学等、体験的な活動を取り入れ、実感的な理解につなげる。</li> <li>・47都道府県の位置と名称を先に覚えさせ、その後漢字で正しく書けるよう繰り返し練習させる。</li> <li>・自分の考えを表現する時間を十分に確保し、個別指導を充実させる。</li> </ul>

5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく扱う単元に興味をもって取り組める児童が多い。</li> <li>・覚える内容が多い単元は、知識理解の定着が難しい児童もいる。</li> <li>・読み取った情報から必要な情報を選びだし、まとめることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習を毎時間行う。</li> <li>・基本的な用語についての資料を用いた具体的な指導を行う。</li> <li>・調べる際の視点を明確にした授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の疑問から学習問題を設定し授業を行う。</li> <li>・教科書や資料集の資料や地図帳を読み取る場面で視点を示し行う。</li> <li>・読み取った事実の理由について、既習事項や生活体験から予想させる。</li> <li>・自分の考えを証明する資料を調べたり友達のことを聞いたりまとめ方を見合ったりする時間を作る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史への興味関心が高く、社会科の学習を楽しみにしている児童が多い。</li> <li>・人物や事象との関連がつかめず苦手意識をもっている児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年表の効果的な活用を図る。</li> <li>・より分かりやすい資料を用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年表を使い、学習計画をたてたり、学習した事実を振り返ったりする時間を設定する。</li> <li>・時代による違い、立場による違いを比べ見つける活動を取り入れ、特徴に気付かせる。</li> <li>・デジタル教材を用いて、イメージをより鮮明にして歴史的背景などの理解を図る。</li> </ul>

(3) 算数科

算数科の重点

少人数指導を活かして、基礎的、基本的な力をつける。習熟度別に授業を行い、児童の学力に合った問題解決の場を作り、自分の考え方を説明する力を伸ばす授業を計画する。そのために、ペアで説明し合ったり、グループで説明をしたりする活動を入れ、段階的に場面を設定する。算数用語を使えるように、用語や公式の提示物を作成提示することで、児童の学習環境を整える。

	数学的な 考え方	技能	知識・理解
2年生	67.2	80.6	83.6
3年生	77.0	87.8	86.5
4年生	83.3	86.7	88.3
5年生	85.7	85.7	78.6
6年生	73.5	85.7	81.6

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な力の定着に差がある。</li> <li>数の数え方、10までの数の順序などは概ね理解している。</li> <li>計算問題はできる一方、文章問題などを読み取り、立式することは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずいている児童への基本的な技能や知識の習得。</li> <li>式の意味をつかませる指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かったことをペアに説明するなど、ペアの活動を取り入れる。</li> <li>スキルや計算カードを繰り返しやらせて、基礎基本を定着させる。</li> <li>具体物を操作したり、図や絵を使って表したりする。</li> <li>文章題のわかっていることや、聞いていることに印を付けさせる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね既習事項は身に付いている。</li> <li>計算問題の得点率が高いが、文章を読み取り立式する問題は加法減法ともに正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題の問われていることを理解していないため、立式することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別にクラスを分け、児童に合った指導を行い、理解を確かめながら授業を行う。</li> <li>授業内で文章問題に多く触れさせ、問題の読解力を上げていくとともに、宿題の文章題の量を増やす。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の習得はおおむねできている。</li> <li>数量や図形についての知識・理解、技能の達成率がやや低い。</li> <li>場面を理解し説明する達成率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別に基礎基本の習得を続ける。</li> <li>説明させる機会が少ない。</li> <li>用語の説明が徹底していなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習や放課後補充教室を活用し、基礎基本練習をさらに強化する。</li> <li>自分の考え方や解き方を説明させる機会を増やす。</li> <li>用語や公式の掲示物を作成し、言葉に触れる機会を多く作り、正しく使えるようにする。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の習得はおおむねできている。</li> <li>重さを推測することの正答率が低い。</li> <li>( )を含む乗法と表の作成と読み取りの達成率がやや低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>量感を体験できる場面が少ない。</li> <li>( )を含む乗法とその表の意味を理解させていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな重さや長さを推測してから、測る活動を増やす。</li> <li>家庭学習や放課後補充教室を活用し、計算問題に多く取り組む。</li> <li>授業でも内容をさかのぼりながら説明していく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の習得はおおむねできている。</li> <li>がい数の表し方、分数、整数の大小、面積、ひし形の作図、二次元表、除数と余りの関係などの正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度のグループの授業内だけで、定着するまでに至らない分野がある。</li> <li>量感を体験できる場面が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟が不十分な単元を選び宿題にしたり、放課後補充学習で個別指導したりして、何回も復習練習して、定着させる。</li> <li>単元によって、児童の実態を考え授業内容を変更し、児童のつまづきを減らしていく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の習得はおおむねできている。</li> <li>読み取りの問題の正答率が低い。</li> <li>問題に対して、正しい説明ができない児童が多い。</li> <li>図形、作図の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>割合、百分率の文章問題が十分に理解できていない面がある。</li> <li>算数用語を使って、正しい説明が十分にできていない。</li> <li>説明させる機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年の割合、百分率や応用問題もワークシートで復習してから、比を割合と関連づける6年の学習までつなげて、指導する。</li> <li>ペアで考え方を説明する活動を入れたり、ホワイトボードを使ってより多くの児童がみんなの前で説明をしたりする活動を入れる。</li> <li>用語や公式の掲示物を作成し、言葉に触れる機会を多く作り、正しく使えるようにする。</li> </ul>

(4) 理科

理科の重点	思考・表現	技能	知識・理解
	6年生	83.7	73.5

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

- ・実験を行う際の技能の向上が必要。  
→実験計画や実験の時間を十分にとる。
- ・問題意識や目的意識を明確にした実験計画を立てる必要がある。  
→問題作りの場面で、予想や仮説をしっかりと考えさせる。
- ・実験結果の考察を丁寧に行う。  
→実験を振り返り、問題や予想に立ち返って結論の導出をさせる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心が高い。</li> <li>・問題解決の過程の中で、問題及び仮説の設定はできるようになりつつある。</li> <li>・比較するという考え方も身に付きつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の時間を十分に取れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の視点を繰り返し指導し定着させることで、観察の時間を確保する。また、実験の際は、ノート指導をしっかりと行うことで見通しをもたせてから実験に取り組ませる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいる。</li> <li>・実験の技能に個人差がある。</li> <li>・実験をした後の結果から、考察することが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の技能を身に付け活用する場の設定が不十分である。</li> <li>・考察をする際の視点を明確にすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の技能を身に付けさせるために、図や視覚教材を活用し見通しをもたせて取り組ませる。</li> <li>・考察をするときの視点を明確にし、児童に提示する。また、理科の用語を意識した考察をさせる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいる。</li> <li>・立てた仮説を実証するために、どの条件を制御して観察や実験をするのか考えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差があり、グループの実験では、友達に頼ってしまう児童がいる。</li> <li>・仮説→観察・実験→結果を関連付けて、考察を導き出すことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の手順をスモールステップを踏んで説明する。実験の役割分担を、持ち回りで行うようにする。</li> <li>・必ず、仮説や予想を振り返らせる。考察の視点を明らかにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいる。</li> <li>・仮説や実験、結果を振り返り考察する際に、言葉が足りない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験計画の立て方の指導法。</li> <li>・仮説、実験、結果を繋げて考察する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験から予想を立てさせる。</li> <li>・実験における条件制御の指導を丁寧に行う。</li> <li>・考察をするときの視点を明確にし、必要があればキーワードを提示する。</li> </ul>



(5) 生活科

生活科の重点

活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。

- ・動植物などの自然と関わる機会を多く設ける。
- ・他学年や他者（保育園や幼稚園、お店で働く人々など）との交流を積極的にもつ。
- ・進んで自分の意見や感想を友達に伝える。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝顔の世話を進んでしており、成長を楽しみにしている。</li> <li>・夏さがしやシャボン玉などの活動に意欲的に取り組んでいるが、自然の特徴や良さについて気付く児童は半数である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に関わる体験の充実。</li> <li>・ものの見方の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物に触れたり育てたりする体験の機会を多くもつ。</li> <li>・観察や活動の観点を細かく指導したり、活動後の振り返りの視点を明確にしたりする。</li> <li>・学んだことを自分とのかかわりでとらえさせ、自分自身や自分の生活について考えさせる。</li> <li>・気付いたことをもとに考えられるように、多様な学習活動を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な動物や植物に関心をもち、積極的に触れ合い、自発的に楽しむ様子が見られる。</li> <li>・サツマイモや夏野菜を植え育てる体験や、ザリガニの飼育を通して、動植物に興味をもち、生き物を育てる喜びを感じている。</li> <li>・下学年との交流を通して年長者としての自覚をもち、年下の子への優しさをもって関わろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然と直接かかわる活動や体験のさらなる充実。</li> <li>・身近な自然とのかかわり合いを通して、自然を大切に育てる態度の育成。</li> <li>・学校内だけでなく、地域の方など学校外での身近な人々との交流活動の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の身の回りにある関係の深い動物や植物、自然の事物や現象、季節による様々な自然の変化に関わる機会を多く設ける。</li> <li>・動植物について調べるだけでなく、自分の発見や感想を友達と交流し、知識を共有する場面を多く設ける。</li> <li>・他学年や他者との交流を通して、互いの関わりを深める。そのことによって自分の成長について一人一人の認識を深める。</li> </ul>

(6) 音楽科

音楽科の重点

基礎基本を身に付け、それらをもとに思いや意図をもって音楽を表現したり鑑賞したりする喜びや楽しさを学ばせる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく歌うことができるが、のどに力が入ってしまうことがある。</li> <li>楽しく鍵盤ハーモニカに取り組んでいるが、指番号や手の形に気を付けて弾けないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地声と裏声の違いを意識させた歌い方の指導。</li> <li>鍵盤ハーモニカの基本的技能の確実な定着。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに聞きあう活動を行い、声の出し方を工夫させる。</li> <li>「シュークリームの手」など児童にイメージしやすい表現で指導する。</li> <li>階名唱、運指唱を繰り返し行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音程に気を付けて歌ったり、リズムにのって楽器を演奏したりすることができる。</li> <li>約半数の児童は、楽曲の気分を感じ取って表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現のヒントになる形容詞の例を提示し、表現の仕方を考えさせる指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに聴き合う活動を増やす。</li> <li>鑑賞の授業で、身体表現を取り入れたりする指導を行うことにより、曲想を感じ取らせ、表現する活動につなげる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に関心をもち、進んで活動している。</li> <li>リコーダーの学習では、音色に気を付けて吹くことに課題のある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読譜に慣れさせる。</li> <li>リコーダーの基礎の定着。</li> <li>録音機材の活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導の機会を多く設定し、基礎基本の定着を図るようにする。</li> <li>互いに聴き合う活動を増やす。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを、言葉や文章で表すことが得意な児童が多い。</li> <li>積極的に歌唱するが、声の出し方や曲想に気を付けて、工夫して歌うことには課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発声方法の工夫。</li> <li>表現のヒントになる形容詞の例を提示し、表現の仕方を考えさせる指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名演奏を聴かせたり、模範になる児童を積極的に紹介したりして、表現に生かす。</li> <li>互いの歌声を聴き合う経験を積みさせる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>各題材について興味関心を持ち、積極的に活動している。</li> <li>互いの音や副次的な旋律に合わせて、聴き合いながら演奏することが困難な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動形態の工夫。</li> <li>録音機材の活用。</li> <li>表現のヒントになる形容詞の例を提示し、表現の仕方を考えさせる指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数での聴き合いやグループ活動を増やし、互いの音を聴き合ったり、アドバイスをし合ったりする経験を積みさせる。</li> <li>鑑賞の授業で、身体表現を取り入れたりする指導を行うことにより、曲想を感じ取らせ、表現する活動につなげる。</li> </ul>

6  
年

- ・各題材について興味関心を持ち、積極的に活動している。
- ・互いの音を聴き合いながら歌ったり、演奏したりすることには慣れてきたが、曲想を工夫したり、思いや意図を持って表現したりすることに課題がある。

- ・活動形態の工夫。
- ・録音機材の活用。
- ・表現のヒントになる形容詞の例を提示し、表現の仕方を考えさせる指導。



- ・少人数での聴き合いやグループ活動を増やし、互いの音を聴き合ったり、アドバイスをし合ったりする経験を積ませる。
- ・鑑賞の授業で、身体表現を取り入れたりする指導を行うことにより、曲想を感じ取らせ、表現する活動につなげる。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

楽しみながら基礎基本を身に付け、人・もの・場と関わりながら表したいことを見つけて表す活動や、鑑賞ができるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたり、つくったりする活動を楽しんでいる。</li> <li>何を描くか、何をつくってよいか分からずになかなか取り組めない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の扱い方の習得。</li> <li>鑑賞活動の充実。</li> <li>発想を豊かにする力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に支援する。</li> <li>材料とふれあい、友達とかかわり合いながら発想を豊かにしていく。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な題材に興味をもち意欲的に取り組んでいる。</li> <li>用具の扱いに課題があることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身を使った造形活動の充実。</li> <li>はさみ、カッターナイフ等、用具の安全で正しい扱い方の習得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形活動のねらいに即した材料の選定と場の設定を工夫して行う。</li> <li>用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に支援する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いをもち、楽しみながら取り組んでいる。</li> <li>材料の特性の理解に課題があることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いを認め合う活動。</li> <li>のこぎり、金づち等、用具の安全で正しい扱い方の習得と材料の特性の感覚的な理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞活動を楽しめるように工夫する。</li> <li>用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、活動後の感覚的な理解を促す。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら主体的に活動している。</li> <li>新たに扱う用具に積極的に挑戦しているが、まだ十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲に応える発展的指導。</li> <li>彫刻刀、電動糸のこぎり等、新たに扱う用具の安全で正しい扱い方の習得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発想を生かし試行錯誤できる題材を開発する。</li> <li>用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝えると共に、教え合う活動を取り入れ、活動後の感覚的な理解を促す。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら主体的に活動している。</li> <li>自分の発想や表現を深めきれないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高いめあてを設定した活動。</li> <li>鑑賞活動を通じた深い学びの実現。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のめあてを設定させ、授業の後に振り返り、次のめあてにつなげさせる。</li> <li>発想や表現の良さや面白さをより感じるような鑑賞活動を行う。</li> </ul>

6  
年

- ・楽しみながら主体的に活動している。
- ・見通しをもち、表し方を構想する活動に課題があることがある。

- ・自分のめあてを十分意識した、主体的な活動。
- ・見通しをもって構想する活動の充実。



- ・自分のめあてを設定させ、授業の後に振り返り、次のめあてにつなげさせる。
- ・ワークシートを活用すると共に、伝え合う活動を通して構想の幅を広げられるようにする。

(8) 家庭科

家庭科の重点

実践的・体験的な活動を多く取り入れ、家族の一員としての自覚を高め、できることを増やし、家庭生活に生かそうとする態度を育てる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科の授業に関心、意欲をもって取り組んでいる。特に、調理実習や縫い物の実習に熱心に取り組んでいる。</li> <li>能力や生活経験の差が大きい。特別な支援を必要とする児童もいる。</li> <li>実習では、友達と協力しながら、基礎的な技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の一員としての意識が低く、学習したことを生かして、家庭生活をよりよくしていこうとする気持ちが少ない。</li> <li>個人差が大きいために、実習では進度に差が出たり、グループでもめてしまったりすることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に協力をしてもらい、家庭ですぐに実践できる課題を出す。</li> <li>児童の特質や発達段階に合わせて作業を単純化したり、とうのやま学級と協力して適切な指導方法を取り入れたりする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科の授業に関心、意欲をもって取り組んでいる。</li> <li>裁縫や調理の実習では、友達と協力しながら、基礎的な技能を身に付けている。</li> <li>体験し学んだことや、身に付けた技能を主体的に家庭生活中で生かそうとはしていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能については個人差が見られる。</li> <li>家庭生活での実践が続かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭で実践できることを具体的に挙げ、実践のヒントを示す。</li> <li>授業で学んだことを生かすことのできる宿題を出す。</li> <li>班での活動を多く取り入れ、学び合わせる。</li> <li>家族の一員としての自覚を促す声かけを続ける。</li> </ul>

(9) 体育科

体育科の重点

- ・体力テストで課題に挙げた力を身に付けさせるべく、教材を選定し、意識的・効果的に運動に取り組むことができるように授業を作る。互いに関わり合い楽しく運動ができるように指導法や学習活動を工夫していく。
- ・課題を解決する振り返りの時間を持ち、自ら取り組み、対話を通して自己の思考を広げ深めていけるようにしていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に体を動かす児童が多い。特定の運動について苦手意識をもつ児童もいる。</li> <li>・体力テストの数値は男女共に概ね全国平均であるが、男子は握力が、女子は握力と 50m 走の数値が全国平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な運動感覚を身に付けていく必要がある。</li> <li>・体力テストの数値が高い児童と低い児童との差が大きい。</li> <li>・筋力や走力を高める運動遊びの不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く教材分析を行い、様々な動きを経験させ、運動遊びの楽しさを味わわせる。</li> <li>・適切な運動量を確保するとともに、いろいろな遊びを通して体力が高められるよう指導を工夫する。</li> <li>・学年遊びや体育の準備運動において、筋力や走力を高める運動を取り入れる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に外遊びをして意欲的に体を動かしている児童が多い。</li> <li>・体力テストの数値は男女共に全国平均より低い水準にあり、特にシャトルランの数値が低い。</li> <li>・技能面での個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ遊びに偏りがちである。</li> <li>・全身持久力を高めるための活動が少ない。</li> <li>・基礎的な体感覚、運動感覚の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びを提示し、学級全員で体を動かす楽しさを感じられるような運動遊びに取り組ませる。</li> <li>・学年遊びや体育の準備運動で、全身持久力を高める活動を取り入れる。</li> <li>・楽しい体力作りを取り入れ、運動量をしっかりと確保した授業作りをする。</li> </ul>

3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に体を動かしている児童が多い。</li> <li>・技能面で個人差が大きい。</li> <li>・運動習慣が週1～2日一日2時間程度の児童が多く、運動量が少ない。</li> <li>・体力テストは、男女とも敏捷性、持久力、筋力が全国平均より低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲面や技能面でつまづいている児童への効果的な支援の方法。</li> <li>・一単位時間内の運動量と運動の質の確保。</li> <li>・運動習慣の見直し。</li> <li>・持久力を高める運動を取り入れた指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士で教え合いがあり、友達と一緒に体を動かす楽しさを感じられるように学習活動を工夫する。</li> <li>・技能をスモールステップで指導し、全員の定着を図る。</li> <li>・児童の運動能力の実態に合わせて教材を選定する。その教材の中で、効果的に運動能力を伸ばせるよう指導計画を立てる。</li> <li>・休み時間に多様な運動遊びに触れる環境を作る。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に鬼ごっこをする児童は多くいるが、多様な遊びはあまり見られない。</li> <li>・体力テストの数値は、男女共に全国平均とほぼ同じでバランスも良いが、敏捷性の数値がやや低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の刺激に対して素早く反応する運動や、動作をできるだけ早く切り換えて行う運動量の確保。</li> <li>・筋力を高める運動を取り入れた指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性や身に付けさせたい力を把握し、児童の実態を考慮して指導計画を組み立てる。</li> <li>・体育の授業のみならず、休み時間や遊びタイムを使って、脚力を高める活動を取り入れる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びとして体を動かすことが好きな子が多い。</li> <li>・技能面での個人差が出てきており、成長に伴う筋力不足や持久力の低い児童がいる。</li> <li>・体力テストでは、反復横跳び、50m走の数値が平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲面や技能面でつまづいている児童への効果的な支援の方法。</li> <li>・敏捷性や走力を高める運動を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しさや達成感を感じられるように、個々に合わせた指導・声掛けをしていく。</li> <li>・児童同士での学び合いの場を設定する。教え合い、共有し、認め合う活動を通して意欲を高める。</li> <li>・授業の最初などで、遊びながら走る運動を取り入れていく。</li> </ul>



6年

- ・忙しい児童が増え、運動量は大幅に減ってきている。
- ・表現運動等、全員で力を合わせて取り組む運動への意欲、技能面は高く楽しくできている。
- ・体力テストでは、男女ともに概ね全国平均であるが、男子は20mシャトルランや50m走、女子はソフトボール投げが下回っている。

- ・自ら取り組みたいと感じられる教材や活動の工夫。
- ・運動量を確保した上で、作戦タイム等の話し合う時間の確保。
- ・走力や投力などの体力を高める運動を取り入れた活動の工夫。



- ・児童の実態や単元の特性を考慮した上で楽しさが感じられる教材を実践していく。
- ・互いのよかった動きを認め合う時間を設け、相手を称賛する態度を育てる。
- ・準備運動に、単元を考慮した上での筋力を高める運動や、多様な動きをする運動を多く取り入れる。